



# 家庭日課

宮川 すみ

家庭の日中行事や一週の仕事の配り方これは一度か二度どなたかへ申上りましたから重複いたします事と思ひますけれどもこれは出来るだけ眞似てもよろしからふと思はれますから御話いたしましやう。まわ一日の仕事はどういふ風にして居りましやうか。

朝下婢は主人よりはやく起きましてまづ第一にストープをたきつけそれから入口の石段を砥石で磨き奇麗にいたします。恰度我が國でまわ人様の御見えにならないうちに御玄関を拭いてといふやうなわけで、それから格子戸板戸その他棧になつて居ります處をふくと同様にあちらでは各戸の取手其

他眞鍮で造りつけられてありますものを磨きま

す。これがすみすみと食堂の火をたき御湯を沸かしま

すその間に朝飯の用意それは簡單にパンを薄く切りたるものやさしもの所謂トーストにバターその他ジャミをつけベーコン（豚の

肉）の焼きたるものやゆで卵位これにコーヒー或は茶をそへて朝食

その間に主婦は小供を起し衣類何くれの世話をし

て時間になりますと食堂にゆき清き朝の食卓につき集り來れる元氣よき小供等の父様からベーコン

の焼きたるものや玉子を分配していたゞけは母様からはコーヒー或は茶のあまりこくなきを注いでい

たいき幸福なる一日の門出の食事をいたします。此間下婢は各寢室にゆき寝具を一つ／＼椅子の上

にかけ日光に暴露し風を通し顔洗ひの水をすて、部屋を奇麗にし、それから自分食事して後食器を

主婦や娘は食後各室内の器物のカラ拭(乾キタル  
布巾ニテ拭)をし花の新しいきにさしかへ水をか  
へ清らかに致します。

下婢は寢室に入り寢具をはらひ夜寢の準備をして  
まわあちらで「床を敷く」といふわけです寢室が  
別てありますから朝直く寢床を設くるわけ、それ  
から蠟燭立てやその他の金の物を磨ききれいにいた  
します。

晝食後になりますと初めて客間のストーブをたき  
主婦も下婢も皆服装をあらためまして四時から五  
六時頃まで訪問の客を接待する事が出来るやうに  
して居り御客の見えません間は縫ひ物つぎ物など  
をしあるは讀物などをし一寸もボンヤリすごすや  
うな事はありません。夜になりますれば一家團樂  
の泉たる夕食の卓をかこみます寢室に行く六時か  
六時半にいのりをしてねます食堂に出ますのは只  
年長の子弟のみです年長じたる男兒の幾分思慮あ  
るらしき話、女兒のやさしきなかに道徳的な凛と

したる處ある話に應答しとやかに無言の中に種々  
の作法を教へつゝ一日の苦勞も全くわすれいろ  
くの話に時として品を落すやうの話の材料にら  
つれば注意ふかき主婦の清く高き材料にかへて何  
處までも清く美しき食卓上の華をさかせ花瓶の花  
にさそはせ、一家のつかれは全くたのしさにけさ  
れてあすの元氣をつければ生競争の烈しき中に  
立ちて充分快戦し得る力を興させます。

やがて寝るべき時間になりますれば一同娘むすこ  
下女下男まで今日の平和を神に感謝しあすも清く  
すでさん事を祈りましてそれからわたゝかき寢に  
つきます、まわこれが一日中の事。

一週間中にはまた仕事配つてありまして  
日、安息日、前日配布せられし衣類と着變  
月、洗濯日  
火、部屋大掃除  
水、寢室大掃除  
木、食堂、階段、廊下、大掃除

金、客室大掃除、金物磨キ  
土、臺所、物置、食物、貯蓄所、大掃除

といふやうに各家の都合によりましては、或は少しづゝのちがひはありまじやうが大躰をきめてあります、それでまづ土曜日の夕方寢臺の處へ洗濯致しました着更へを上から下まで揃へておさまして明日會堂に参ります時に清らかにしてゆくやうにさせその抜きかへました洗濯すべき物は室の隅にそなへてあります籠の中に入れておかせます月曜日には洗濯物の煮釜に水を入れて湯をわかします其間各室から洗濯物をあつめて來まして洗濯をいたします。まづその着物に孔はなきか綻はなきかを一通りあらためましてその孔は一寸かゝりまして孔が大きくならないやうにしておきそれから上着と下着、毛織物と木綿物、絹物、ハンカチーフとまた色物と白き物と皆分類しまして金巾類や襯衣のやうな白きものをソーダ水の中につけておきやがて順をおひまして洗濯に取りかゝります

まゝそれにはシャボン水、煮釜、洗濯袋、ブリユーを用意してそれから食鹽も少許ソーダも少許それがとゝのひましたらば始めます

シャボン水は鍋の中にシャボンを細かく切りまして沸かしました御湯を左手にてつきつゝ、右手にてかきまはしながらかしてこしらへます。

洗濯袋 金巾にても木綿にてもよし四角につくり三方を縫ひまして角の一ヶ所孔をあけて

水を出す事が出来るやうにこしらへます

ブリユーは白き物をあらひたる後青味を加へる爲めに少許り水にとかしうすく蒼色位にして用ふ

食鹽 これはハンカチーフの如きものを洗ふ時一種の消毒用に水にとかして用ふ

ソーダ 煮釜に石鹼を入れて共に煮沸し洗濯物を煮る際に用ふ

毛織物を洗濯いたしますのはどういたしましたがよろしう御座りましやうかと云ふに

まづ前にこしらへましたシャボン水を洗濯籠に少し移しましてよくかきまぜて泡を澤山立てまして其泡の中へ恰度微温湯の中へ洗ひますものを入れてたいつかみましてシャボンの泡を通します斗り決して揉まずに泡の中でつかみながらそををして居ります中泡がなくなりまた水が汚れましたらばまたシャボン水を取りかへまして洗ひそれからまた同じく微温湯で臭のなくなりすまで二三回濯ぎますそれからやはりつかみ兩手で壓して搾り決して振りまして木綿物を絞る時のやうにせぬやうにしてかきまです。毛織物だけは熱湯で洗ひますと赤褐色がこげたやうになつてしまひますし、水であらひますと縮んでしまひますからさつと微温湯でなければいけません又揉みますと粒々が出来ますからそれもよく氣をつけないければなりません。毛織物がすみまして金巾や木綿の品物さきにソーダ水へつけておきました、それは洗ひ板へかけて先きのシャボン水であらひますそれには別段の注

意もいりませんあとをよくすすぎて臭のなくなる迄でにいたします。

ハンカチーフこれは一寸小さなものなればかまはぬやうですが手を拭き鼻を拭き口をふきいろく用の用をして居りますものですからまた種々微菌なども着きやすくそのおそれがありますから他のものと別にして食鹽水の中につけておきます。それをお湯であらひお湯でよくすすぎます。

さわこれで洗ひ物がすみましたからこれを洗濯袋へ幾度にも分けまして入れ、それをさきの煮釜の中へ二十分位入れまして煮ます、それからそれを上へあげまして水をはへます、水は孔から出まして雑作なく引きあげられますそれでそれから洗濯物をととり出しなほ湯で二回位すすぎ終りに金巾物のやうの類ならば冷水にてあらひ後ブルーをとかししました中へ絞りましたのをひろげまして入れ、あげて乾かしますまわ一寸青すませるのでそれを絞りました儘で入れますと縞になりますから

ひろげて入れます事をわすれぬやうにせねばなりません。

まわこれて今日月曜日の仕事はすませましたそれが生かはその時に裏から縦糸にそひまして軽く火熨斗をかけ、それから表にかへしましてよくかけますとあの艶が出ます。

火曜日大掃除まづ室内の物にて動かさるゝものだけは皆移しテールブルのやうなものはそのまゝにし其上に小かき品をのせカーペットの四角をみつめし塵のかゝらぬやうにしてピアノの上にも風呂敷でもかけ隅から隅まで天井から窓硝子凡て掃除してその部屋の煤掃きのやうにしてこれを毎週いたします。

午後にはハンカチーフ其他細かきものゝ火熨斗をかけなどして一日を終ります。

水曜日寢室掃除これもきのふのやうに丁寧に行ったします。

木曜日食堂は前の部屋と同じく掃除して階段廊下

のカーペットをはがしこれをおさへておきます真鍮の棒もとりはづしましてみがき清潔に出来るたけいたします。

金曜日客間の大掃除明日あたりはお客様も見ゆべし大抵招待の御客は、土曜日なればよく御掃除して手おちなきやうにこゝろして掃除おはれば午後金物のみかきかく

土曜日臺所物置の大掃除食物貯蓄所も掃除して明日は日曜何れの店にても物品を販賣せねばそれ

入用の品物を買ひとゝのへおき恰度一年中の大晦日のやうそれから御客様が来て遊びたのしみ物見遊山をしたのしむも今日にて恰度わが日曜

日の如し。

日曜日今日は常より少々おそく起き客室を一寸掃除して他は何事もなさず會堂にゆき午後一時頃晝

食の卓をかこみ常ならば夕食を御馳走にすれども今日は夕方をあつさりとして御晝に御馳走にし夕

方は冷肉とサラダ位にしておき下婢を教會に遣

します小供は午後から日曜學校にゆきまして神様の事をさかされまして習慣上ブランコにもものらず

おとなしき一日をすどします。

各教會は各町内に一つ位づゝありて其處に各家内の腰掛をそなへかき一家打揃ひて一週一日心も體も怠め靈的の事につきて心をひそめ反省をうながされ種々の事業の上にて眞面目なる考を及ぼす

べき源となり従て英國社會の良風を來しつゝある泉となりこゝより清き氣風は湧き出で、今日

あるなるべしこの點を見ずしては英國の今日を來せる事の起因を知らずしてたい人の往來の繁き煙

突の煙に巻かれたるのみ日本に來りて風景をながめて日本魂を解せずして歸る外人に比すべし。

まわ此の様に家庭に規矩あるためには朝起きて今日

はこれをしやうかわれをしましやうかと洗濯物も集り次第何のあてどもなく考へまどひ時間を費

やす間に餘程の仕事も書見も出來ます日に月にすゝみゆくありかたき大御代に世界に轟きわたれる

日本の國の基をかたひべき各家庭に於て事毎に考へて時間を徒らにするその時を百戸二百戸あつめても大した時間まして萬を以て數ふる各家庭に於て仕事の配り方に氣をつけられませんでしたならばその間に實業なり何なり生産の事をなさば國の富むはいはでもの事あゝ今日の日にをしき事してすごさん事の口惜しさいかだよしと思はゞ二三軒約束して實行し初め次第にひろげなば御國の爲此上なき幸にして女としての御惠にこたへまつるべき一端ならんに。

